

募金使用報告

2009年1月8日に振り込みいただいた皆様からの募金 178,558 円をブルキナファソ蚊帳低額販売資金として使用させていただきましたので報告致します。

1. 蚊帳低額販売に至った経緯

ブルキナファソでマラリアは死因の1位であり、特に5歳以下の子どもが犠牲になっています。マラリアはハマダラ蚊により媒介されます。予防法はいろいろありますが、薬剤浸潤の蚊帳を年間を通して使用すると、重症マラリアが80%減るともいわれています。

また、私自身の活動中、診療所で毎日本当にたくさんの住民たちがマラリアに罹っている姿を目にしていました。マラリア予防の啓発活動中、住民たちにマラリアの予防策を尋ねると、一番に『蚊帳』という答えが返ってくるのに、実際蚊帳を持っている人はとても少ないということがとても気になっていました。購入したくても売ってなかったり、家計の負担が大きいため購入に至らない。という声もたくさん聞きました。

そのようなことから、いただいた募金で住民たちに蚊帳を届けることはできないかと考えました。

また、責任を持って大切に使ってもらえるように、より多くの人に届けられるようにとの理由から、蚊帳を低額にて販売することにしました。価格は現地の人たちと相談し1,000FCFA（約200円）に設定しました。これは現地では、お米が3キロ買えるくらいの値段です。マラリアに罹った時に使う点滴一本も同じくらいの値段です。

蚊帳販売は、私が活動で訪れたことのある3つの村で行いました。

2. 村での蚊帳低価格販売

①ダビオウ村

募金から購入したもの

- ・ 蚊帳280張
- ・ デモンストレーション用蚊帳1張
- ・ 記録用 ノート1冊 ボールペン1本

2009年2月6日より蚊帳販売を開始し、これまでに510張の蚊帳を住民に販売しました。

初回の説明会には約60人の住民が参加し、その後も村で何度かマラリア予防の啓発活動を行っています。

村の保健ボランティア ビエン・アミドゥさんの家で在庫を管理し、記録も彼が行っています。

近隣の村からも噂を聞いて蚊帳を購入しにくる人もいます。



蚊帳と記録用ノート



蚊帳のデモンストレーション



蚊帳を購入した親子



保健ボランティアのアミドゥさん



蚊帳購入者への家庭訪問。「こんなふうに使っているのよ」と、見せてくれました。

②ナディオオン村

募金から購入したもの

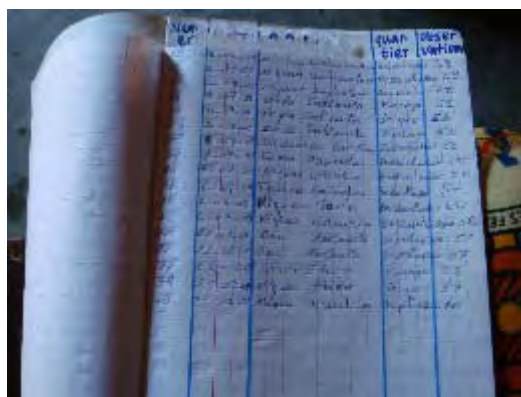
- ・ 蚊帳80張
- ・ デモンストレーション用蚊帳1張
- ・ 記録用 ノート1冊 ボールペン1本

村の保健ボランティアと相談し、蚊帳の販売対象者を妊産婦と5歳未満児とし、5月27日から蚊帳販売を開始しました。現在までに95張を販売しました。

村の保健ボランティア ニニャン・モアディニさんの家で在庫管理をしています。



ナディオオン村の風景



記録用ノート



村の保健ボランティア（左がモアディニさん）



蚊帳を買った子ども

③ネブリー村

募金から購入したもの

- ・ 蚊帳80張
- ・ デモンストレーション用蚊帳1張
- ・ 記録用 ノート1冊 ボールペン1本

2009年7月25日より販売開始。現在までに155張を販売。

村長さんの家で在庫を管理しています。村の女性グループのメンバーが中心になって、子どもたちに多く届けられるように協力してもらっています。



蚊帳販売に集まった女性たち



蚊帳を購入した人



村の女性グループのリーダー

3. 住民たちからの声

- ・ 蚊帳は市場にも置いてないことが多い。村で買うことができうれしい。
- ・ 子どもが蚊帳の中で寝ることができます。 ありがとう。
- ・ 1000fcfaで買えることはありがたい。 家族の分、3つ買います。
- ・ 質のいい蚊帳はなかなか手に入らない。 買って、親にプレゼントします。
- ・ 蚊がうるさくて眠れなくて困っていた。これで安心して眠ることができます。
- ・ 私たちの村に蚊帳を持ってきてくれてありがとう。
- ・ 蚊帳を届けてくれた日本のみなさんに感謝しています。 ありがとう。
- ・ これを機会に、日本とブルキナファソがよい関係を保ち続けられることを願っています。

4. さいごに

募金をしていただけると初めに聞いた時は、どのように活用したら住民の役に立つのだろうかといういろいろ考えました。 住民たちの手元に直接届くものもいいと思い、蚊帳を購入させていただくことにしました。 また、ただ手に入れるだけでなく、正しい使い方を知ってもらい、同時にマラリアに関することも学ぶ機会になるよう、各村で蚊帳配布時にはデモンストレーションや啓発活動も行いました。 いつもは呼びかけても20人ほどしか集まらなかった村で、60人近くの住民が集まったこともありました。 蚊帳が村に届いたことで村の人たちが関心を持ち参加してくれたのだと思います。 皆様から頂いた募金で、今までに3村で合計760張の蚊帳を販売することができました。 大きな蚊帳なので一つで、母親と子ども数人が一緒に寝ている家庭もあります。 住民たちからも本当にたくさんの感謝の言葉をもらい、私もとてもうれしかったです。

このような機会をいただけたこと、本当にうれしく思います。ありがとうございました。

平成21年9月28日
青年海外協力隊 19年度4次隊
ブルキナファソ 看護師
熊崎 未紗子